

研究指定校名 : 倉吉市立河北小学校

1. 学校の概要

学校名	倉吉市立河北小学校
学級数	17学級（うち特別支援学級：4学級）
児童生徒数	全児童数：375人（平成31年2月28日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/kahoku-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【本校研究主題】

集団が変わり一人一人が輝く特別活動

～児童の主体的な参加と自律的な学びを促すしかけと活動～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

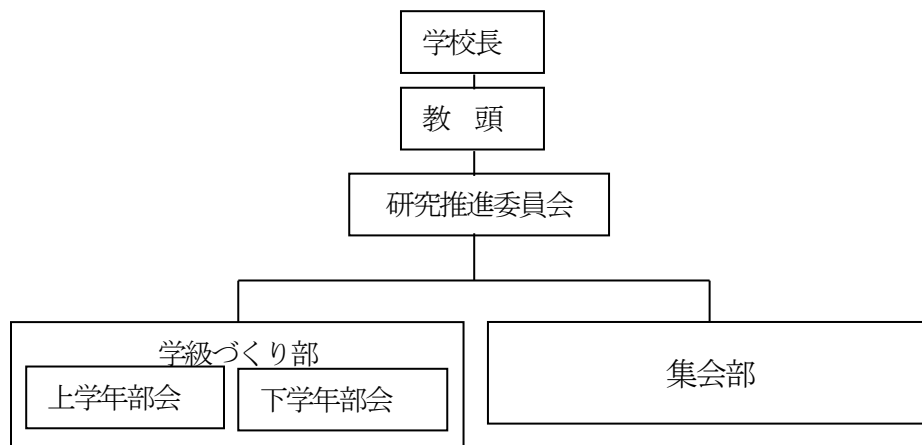
本校は、「人間尊重の基盤に立ち、ふれあいを大切にしながらお互いの良さを認め合い、やさしく、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に、①学ぶ意欲をもち、学び方を身につける子ども②確かな学力を身につける子ども③友達と協働して学ぶ子ども④思いやりと優しさをもつ子ども⑤あいさつをする子ども⑥健康でたくましい子どもをめざして教育活動に取り組んできている。本校の児童は朗らかで、いろいろなことに興味や関心をもって活動することが好きである。しかし、周囲とよりよい関係を築くことが苦手であったり、物事を多様な観点から考察し、判断する力が十分に身につけていなかったりする姿も見られる。

平成26年度から3年間、「感じて 表現して つながろう」を研究主題に、心をときめかせ、豊かに自己表現できる児童の育成をめざして、音楽科を中心とした研究を進めてきた。その結果、児童アンケートの中の「音楽が好き」（80%）、「音楽集会は楽しい」（75%）やアンケートの記述内容から、音楽科における授業や集会活動を通して自己表現することや友達と関わり合いながら活動することの楽しさ、やりきった充実感を感じることができていることがわかった。そして、成果として挙げられるこれらの姿を、他教科や日常生活へと広げていくことが今後の課題であることを確認した。

(3) 取り組む人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（仲間づくり）	○

3. 調査研究の推進体制



《関係協力機関》

○鳥取県教育委員会 ○倉吉市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

平成26年度から3年間の研究の成果を総括した時、今後児童につけていくべき力として、自分の思いを表現する力、相手の思いを受け止める力、自分で考え行動する力、そして、これらの土台となる自尊感情の育成が必要であると共通理解した。

このような実態を受け、平成29年度から、研究主題「集団が変わり一人一人が輝く特別活動～児童の主体的な参加と自律的な学びを促すしかけと活動～」を設定し、児童の自主的、実践的な態度を育て、望ましい人間関係を築き、協働的な集団活動を促していく特別活動を中心に、「自他の良さを認め、協働してよりよいものをつくろうとする児童、思いを伝え合うことのできる児童、目標に向かって行動できる児童の育成」をめざして取り組むことにした。個々の思いや考えが認められ、思いやりの心にあふれた安心して過ごすことのできる仲間づくりを人権教育の基盤にするとともに、学級活動(1)の充実を図り、信頼し支え合って楽しく豊かな学級・学校生活を作ることを通して、自他のよさを認め合い、自尊感情を高めていきたい。

(調査研究の内容)

相手のよさを見つけ、互いに協力し合い、自分の力を学級全体のために役立てようとする学級をめざすために学級力会議を開いてみんなで話し合うとともに、その後の活動の充実(RPDC Aサイクル)を図ること。学級活動(1)の授業研究会を実施し、指導力の向上をめざすこと。さらに、児童会活動等の充実に取り組み、児童の主体的な参加、自律的な学びを促すこと。このような研究を行うことにより、「自他の良さを認め、協働してよりよいものをつくろうとする児童、思いを伝え合うことのできる児童、目標に向かって行動できる児童」を育てることができると考えた。

そして、本研究によって友達と関わり合いながら主体的に課題解決する取組を進めていくことは、人権が尊重される社会づくりの担い手として主体的に問題解決をしていこうとする態度の育成につながるものと考え、実践に取り組んだ。

【期待される成果】

○学級力会議やその後の活動等学級活動(1)の充実を図り、友達と関わり合い学び合うことで、自他のよさを認め、協働してより良いものを作ろうとする児童、思いを伝え合うことのできる児童、目標に向かって行動できる児童の育成を図ることができる。

○学級活動(1)や児童会活動の充実を図り、信頼し支え合って楽しく豊かな学級、学校生活を作ることとおして、児童が自他のよさを認め合い、自尊感情を高めることができる。

(実施方法・検証・評価)

【実施方法】

①実態把握、意識調査、実態調査

⑦「学級づくりアンケート」…めざす学級の明確化

H30 重吉市立河北小学校 学級力アンケート(中・高学年用)

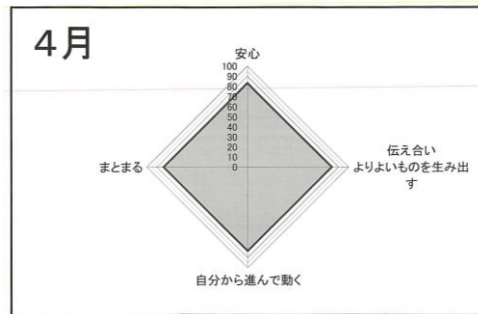
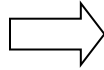
※それぞれの質問を読み、1～4の数字に○をつけましょう。

安心
安心して生活できる学級だ。 1 2 3 4

伝え合い、よりよいものを生み出す
思いを伝え合い、よりよいものを生み出すことのできる学級だ。 1 2 3 4

自分から進んで動く
自分から進んで動いている学級だ。 1 2 3 4

まとまる
まとまりのある学級だ。 1 2 3 4



4月に全児童、全職員を対象に「学級づくりアンケート（こんな学級になったら最高だ）」を実施した。

そして、「めざす姿」を4つの項目にまとめ、今年度の「河北の力」に設定した。

この4つの項目を「学級力アンケート」の項目とし、4つの視点で自分自身や学級、学校を見つめるようにした。

⑧hyper-QU…学級の実態の分析と活用

6月、10月の2回実施した。実施後は、hyper-QU活用について職員研修会を実施して内容を分析し、その後の学級経営に生かした。

②学級活動(1)の授業研究

全体研究会を2回、学年部研究会を3回実施し、教育委員会等の指導助言をいただいた。研究会で意見交換したことや指導助言いただいたことを研究推進だより等で共通理解し、日々の実践に生かした。

③各部会の取組

(学級づくり部)

⑦学級目標づくりの工夫(ゴールの明確化と学校教育目標との関連)

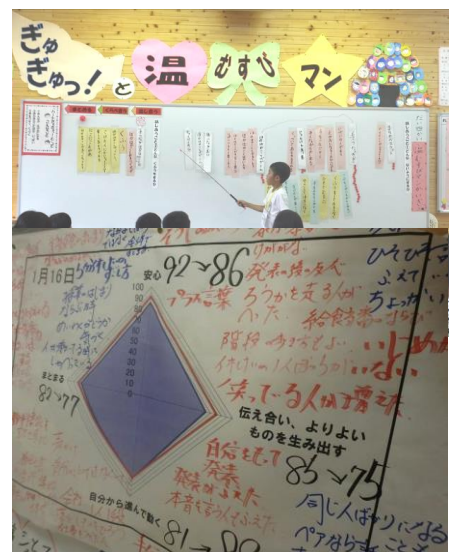
学級目標を話し合う時は、「学級づくりアンケート」で出された児童の思いと教師の思い(学校教育目標)を児童と教師が共有し、その思いをすり合わせて学級目標を設定した。

⑧学級力アンケートと学級力会議、学級会の連動

毎月、「学級力アンケート」を実施し、その結果をリーダーチャートにして児童に提示するとともに、教室に掲示した。見える化することで、日々の児童の姿を「河北の力」とつなげたり、児童自身が4つの視点で振り返ったりすることができた。

アンケートでは、「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」などの項目を選ぶだけではなく、自分がそのように考えた理由も記入するようにした。理由を考えることで、アンケートの結果をもとに月のめあて(学級のめあてや一人一人のめあて)を決める場面で話し合いがより深まった。

アンケートの結果から学級の課題を見つけ、その課題を改善し



ていくための方策をみんなで話し合い、次の活動へとつなげていった。

(例) 「まとまる」が低くなっている。それはなぜか。

→まとまる力を高めたい！

→まとまるカパワーアップイベントの計画

(集会部)

⑦全校集会、上下学年集会の計画

全校集会は2月に実施。

全校という大きな集団での活動に至る段階として、今年度からなかよし班(縦割り班)の色別集会(赤、青、白)を実施することにした。6年生が中心となって内容を考えたり集会を進行したりした。内容や進行を考える際にも、4つの「河北の力」に立ち返り、みんなが安心して活動できること、仲良くなれることなどを考えながら計画実行して



白組集会「2人3脚だるまさんがころんだ」

いった。

上学年は、上学年集会の開催に向けて上学年全員が集まって上学年会議を開き、内容を話し合った。学級会の話し合い活動で身につけた力を生かして話し合い、友達の意見を尊重しながら自分の意見を伝えたり、折り合いをつけたりして結論を出すことができた。

話し合いの結果、「手つなぎおに」と「パイプライン」に決定



⑧音楽集会の計画

音楽集会を7月と2月の2回計画した。7月の音楽集会では、音楽を通して全校が一つになった。

⑨委員会活動活性化の工夫

当番活動、常時活動に終始することなく、「学校をより良くするためにはどんなことができるか」について各委員会で取組を話し合った。

学級活動(1)で話し合ったことを代表委員会で取り上げる、代表委員会で決まった具体的な活動を委員会活動で考え実践するなど、それぞれ話し合い、活動につながりがもてるようにした。その結果、「自分たちがアイデアを出して話し合い、活動することで学校がより良くなる。」という意識が高まった。



【検証・評価】

(成果)

⑦児童アンケート

児童アンケートは、1学期末と2学期末に実施した。(数値は肯定的回答)

- ・「あなたは、学級力会議や学級会の話し合いは好きですか」 67%⇒73%
- ・「学習中に思いを伝え、より良いものをうみだしていますか」 65%⇒69%
- ・「自分から進んで動いていますか」 77%⇒79%
- ・「学級がまとまるように行動していますか」 70%⇒74%
- ・「自分には良いところがあると思いますか」 71%⇒73%

◆期待される成果の中の児童の姿である「協働してより良いものを作ろうとする」「思いを伝え合う」「自尊感情を高める」に関する数値が向上している。

④児童アンケート（肯定的回答の理由記述）

質問「学級力会議や学級会の話合いは好きですか。」

- ・話し合ったらいろいろなことが解決できるから。
- ・何か良いほうに変わっていくから。
- ・新しいものが生まれて学級が楽しくなるから。
- ・クラスみんなで一つのものを作っていきのが楽しいから。

質問「学級会をすることで、学級がよくなると思いますか」

- ・生活が変わっていったから。 ・安心できるようになったから。
- ・一人一人がどんどん発表できるようになって、人のことも考えられるようになったから。
- ・意見を出し合うことで、いろいろな人が気持ちを変えてくれると思うから。
- ・話し合った後に、たくさんの人が努力しているから。
- ◆児童が、協働してより良いものを作っていきることによさを実感したり、自分や友達のがんばりやよさを感じたりすることができていることがわかる。

⑤児童の学習の姿から

- ・6年生の人権学習では、自分を振り返る場面で、自分の弱さや変わってきた姿などありのままの自分を出し合うことができていた。これは、安心して過ごすことができる学級、信頼し合える仲間づくりを進めてきた成果であると考え。

〈課題〉

- ・児童は、自分の考えをもち、その考えを他の児童に伝えようとするようになってきている。そして、話し合い、話し合っただけで決まったことを実践することで自分たちの生活がよりよくなることを実感し、話し合うことのよさも感じてきている。しかし、それぞれの考えを絡み合わせる、他の児童の考えを受け止めた上で自分の考えを伝えるなど、話し合いの深まりという点ではまだまだ十分とは言えない。来年度はこの点の向上を意識し、さらに主体的、対話的で深い学びをめざしていきたい。

(2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
4月3日	研究推進委員会（研究推進計画の企画、立案）	研究推進委員会
4月4日	研究職員会（研究内容の検討、決定）	全教職員
4月4日	専門部会（研究の具体化）	各部会
4月26日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者1人
5月30日	特別活動理論研修会 講師：日吉津村教育委員会 太田敦宏 参事 鳥取県教育委員会人権教育課 山本裕児 指導主事 倉吉市教育委員会 山本千恵 指導主事	全教職員
6月21日	hyper-QU実施、活用研修会	全教職員
6月29日	全体授業研究会 2年1組 指導者 松浦里砂 教諭 指導助言：日吉津村教育委員会 太田敦宏 参事 鳥取県教育委員会人権教育課 山本裕児 指導主事	全教職員
7月3日	学年部授業研究会（上学年、下学年）	上学年部会、 下学年部会
7月15日	音楽集会	全教職員
8月2日	第62回全国特別活動研究協議大会東京大会 国立オリンピック記念青少年センター	参加者3人
8月23日	先進校視察 八頭町立郡家東小学校	参加者3人

10月30日	学年部授業研究会（下学年）	下学年部会
11月1日	hyper-QU活用研修会	全教職員
11月2日	学年部授業研究会（下学年） 指導助言：鳥取県教育委員会人権教育課 山本裕児 指導主事 倉吉市教育委員会 山本千恵 指導主事	下学年部会
11月14日	全体授業研究会 4年1組 徳吉あきこ 教諭 指導助言：日吉津村教育委員会 太田敦宏 参事 鳥取県教育委員会人権教育課 山本裕児 指導主事	全教職員
11月12日	上学年会議	上学年部会
11月16日	上学年集会	上学年部会
12月5日	下学年集会	下学年部会
12月7日	人権学習授業公開 6年1組 横山耕治 教諭	全教職員
12月8日	鳥取市立久松小学校自主研究発表会 特別活動希望の会 in 鳥取	参加者4人
1月30日	研究のまとめ、来年度に向けて	全教職員
1月31日	人権教育推進事業研究推進協議会 鳥取県教育委員会人権教育課 山本裕児 指導主事 中部教育局 福田早由里 指導主事 倉吉市教育委員会 山本千恵 指導主事	参加者4人
2月4日	学級経営について研修(講師：菊池省三氏) 鳥取県教育委員会人権教育課 山本裕児 指導主事 倉吉市教育委員会 山根賢 課長補佐 山本千恵 指導主事	全教職員 全教職員 全教職員
2月14日	人権教育研究推進事業報告会 第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者2人
2月20日	音楽集会	
2月20日	来年度の研究計画	